

2025年5月9日

報道機関 各位

九州初、手術支援ロボット「Hugo」を導入

5月12日に記者レクを開催

長崎大学病院では、2025年3月に手術支援ロボット「Hugo（ヒューゴ）」を導入しました。これにより、当院のロボット手術支援体制は、既存の「Da Vinci Xi」2台に加え、計3台体制となります。Hugoは、2022年12月に日本国内で承認された比較的新しいロボット支援手術システムで、九州地区では初の導入となります。

2025年4月中旬、泌尿器科・腎移植外科において第1例目のHugoによる手術を実施し、安全に終了しました。当院では年間約550件のロボット支援手術を行っており、その需要は年々増加しています。こうした背景から、第3の手術支援ロボットの導入を検討し、このたびの導入に至りました。

Hugoは今までに無いコンセプトで作られたロボットシステムで、操作範囲が広く・大きな関節可動域を有しており、ロボット手術における新たな選択肢として活躍が期待されています。

現在、泌尿器科・腎移植外科、大腸・肛門外科での運用を開始しており、今後は胃・食道外科、産科婦人科への導入も予定しています。

【Hugoの主な特徴】

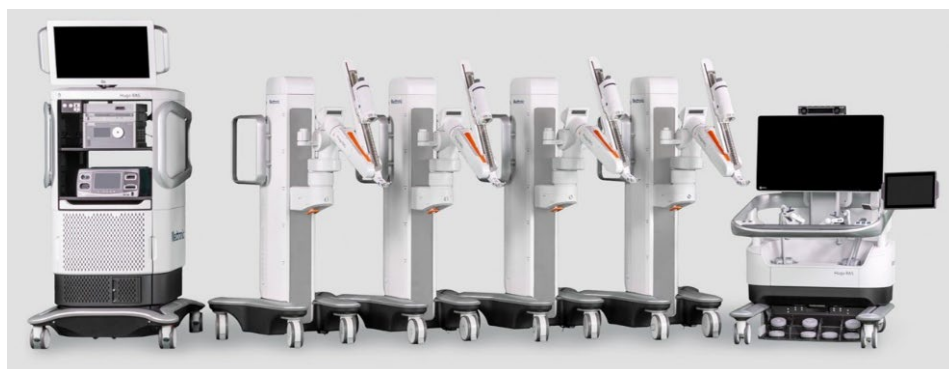
- ・アームカートが独立しており、挿入位置を自由に設定ため柔軟なセッティングが可能。
- ・操作画面がのぞき込まないオープン型のため患者さんの顔や全身状態を確認でき、スタッフと円滑なコミュニケーションが可能。
- ・患者さんの術式に応じてアームの配置や本数の最適化が可能で術式の多様化にも対応できる。



オープンコンソールでの操作



ベッドサイドでの操作



Hugo RAS システムのユニット

【手術を担当した泌尿器科・腎移植外科 今村亮一教授のコメント】

Hugo RAS システムは術者操作画面がオープンコンソールとなっており、手術室全体を見渡すことができ、全てのスタッフと密な情報共有を行いながら手術を行える点で大きなメリットを感じます。また独立アームカートを採用しているため、患者さんそれぞれの体格に応じたセットアップが可能で、今までにも増して患者さんに優しい手術が実施できるのではと期待しています。

【手術支援ロボット Hugo についての記者レク】

今回、導入した手術支援ロボット Hugo について、低侵襲手術センター長より、ご説明させていただきます。

日時：2025年5月12日（月） 13:00～14:00

場所：長崎大学病院内 被ばく医療総合研修センター 2階 多目的研修室

※別添地図参照

説明者：野中 隆 低侵襲手術センター センター長・教授
大腸・肛門外科 科長

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学病院総務課（広報・評価） 大井手

TEL: 095-819-7790 MAIL: mhweb@ml.nagasaki-u.ac.jp

被ばく医療総合研修センター

※病院内立入禁止



被ばく医療総合研修センター



①病院正面玄関には入らず右折



②真っ直ぐ進む



③真っ直ぐ進む



④白い建物が「被ばく医療総合研修センター」



⑤一番奥(突き当り)まで進む



⑥突き当り右側が入口